

願書扣

明治二年

願書扣

明治二年

218

願書扣

明治二年中

東京大学
庶務課

2

五十年史料

218

願書扣

明治二年中



B 95504

前文ニ有クは軍務安ク掛合ニハハ其同地ニ在
ル者ニ面談妥協シハ其國ニ在リテ其ノ名陽ニ
及人ニ之建出ス □ □ 左ノ如ク其後妥協ニ在
ルニ依リ建出スルハ其方ニ同合ニ在リテ通
知スル

石見守方月事申上

一元極田町候方月事申上見守方月事人長ノ助病
事ニ付代弟親方申上先月廿八日市井中取締
所則極田町元極田町方月事清ニ命下被 守
方又九月極田町分隊方月事出江方方月事江守方
右長ノ助入字居方月事同地ノ内ニ而テ石建所
掛石年々極田町元極田町方月事清ニ命下被 守

東京大學

[illegible]

少頃二年六月

九上飯

此藥固見守山人

長幼相孚

代題歌常卷

師役所

涉人荒中穰

去辰年中井江波及動波中新比原之於七梅
院也取建之山自福方之板子知此其後以就
波取院之清且莊郭亦未久補理之此之梅院
沙徑見之其之近之臺畔有者之者押原之り
清深多之其之折板幸之而梅毒院之者其
方之其之古原右娼妓之而集其活極被
河月之其之方其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

梅毒院一同

去辰年中井江波及動波中新比原之於七梅
院也取建之山自福方之板子知此其後以就
波取院之清且莊郭亦未久補理之此之梅院
沙徑見之其之近之臺畔有者之者押原之り
清深多之其之折板幸之而梅毒院之者其
方之其之古原右娼妓之而集其活極被
河月之其之方其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

Blank page with vertical red lines.

一書展羊十月申亥宿虎と名付改慶はるり多
病民の虎と名付掃り少はる振るるはる
変門候曰月中一の虎新出はる者人なり
留るるも一の虎新出はる者人なり
片もも或望と名付此に恒ちお物りはる者人なり
脱候と名付此に恒ちお物りはる者人なり
及名も此に恒ちお物りはる者人なり
病と名付此に恒ちお物りはる者人なり
主勿論候はる者人なり
此より名付此に恒ちお物りはる者人なり
りり金候はる者人なり
左虎はる者人なり

此旨是述彰此二帝民之命陽以後以授之
乃能致 行其乃保此後民之命乃此也
之德乃明歲子於此也

四月

徽 毒 虎 同

此旨是述彰此二帝民之命陽以後以授之
乃能致 行其乃保此後民之命乃此也
之德乃明歲子於此也

石 神 良 策

山下 弘 平

此旨是述彰此二帝民之命陽以後以授之
乃能致 行其乃保此後民之命乃此也
之德乃明歲子於此也

五月廿二日

島津少将内

田中清之進

大府院

長政所

（Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

（Faint handwritten text, possibly a signature or date.)

一紙儀以中為藤治様候より成法以書片付日
叔才留より候様より許し候より叔才留より
口叔留より書片付日

廿月

司馬凌海

孝侯

梅宗事

（Faint handwritten text, possibly a signature or date.)

（Red seal impressions on the left margin.)

志願正足

下客美人臨通了七曲り

臨川新志卷之五

市村新之郎

上地外而土族之存解之內

醫藥學校

而立搖呼

少井之助

水高時從龍鼓少海內一時地陷故在處有古木
 村新台高上池之內百五後坪別紙繪圖而朱門
 之通當今地陷故江月地力益其保其面每
 去元三月中才新其處新繪圖而朱門
 以年地力保其才新其處

少治元年七月

少井村の地

旧

寺田下谷員舎敷通り七曲り市村新太市

九

車

と地内百五段許預く通り油信り清光

方々通七月十日より偏在事

寺願生光

臨幸後法座席

石井 少井満門

下谷和泉橋通り市田坪七郎土地面段後坪
用と法座席在在元受順地麻布市五町
百坪と地仕右坪七郎土地油信地並り
新太市寺田下谷員舎敷通り七曲り市村新太市
と地内百五段許預く通り油信り清光
寺田新太市

乙未月

軍務家附

寺田新太市

臨幸後法座席

石井 少佐 下

高麗通經紀元年

七月十日

多視之

下客員舍揭通

修内三任志

臨邛九原上地之百仞之內

醫學校役部

百五十五

山田一作

弘高時滿學校の梅雨一時停宿仕方書
海野五郎上之池内石五郎作の紙繪圖巻末
川通る高分功宿政 弘高五郎至信保書
はかど

七月

山田一作平






五

卷一

五

卷之四

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

1

卷之四

口
之
足

福泉友編

同人牙藏七月廿四日於在所奉之函去仕佐休之友
多蒙定式之志後方受中少少少少少少少少少少

月

过之

東
山
書
院

中其車後所獲者乃所之并平昆昂上之他之而俘
餘則低矮而面赤口通而為兩倍彼 江戶
至俘殺過者之半也彼之他國之此等 沙
多於此等

八

大多後生

田
名
耕
作

凡
書如不交車後方所不升平以昂上之他
之而詳而分油估上偏者之而而後詳也
久他代不後之而車

名賢古蹟

Handwritten text in vertical columns on the right page, mostly illegible due to fading.

新成以原年中の雇と大島虎野郎に
下共係属小政南角大柳玄澄と他之旨援伴沙
諸地多能知く通ゆ諸に 仰付江右右在り安
此百右子作謀波勢尾仕安候くゆ傍く地
所迄何仕安きぬ其百く此山取斗波り安候
ありと能く下候こと

明治二年七月

元

大島虎野郎

子孫に伝ふ

東大

Handwritten text in vertical columns on the right page, mostly illegible due to fading.

多新在口上足

下谷係臨之臨南角元大觀云後上他之而按
坪之他所之帝虎之鹿正沙多係日有酒
信後居在在安沙至正酒仕古日人 多作
海受其自其地所酒沽仕至引紙繪圖而後
係其其多新在口上

乙

二月

時子夜而方夜

司馬凌海

下

九

書而下谷係臨之臨大觀云後上他之而按
高下之月酒沽仕至

Handwritten text in vertical columns on the right page, likely a continuation of the text on the left page.

子教所是

Handwritten text in vertical columns on the left page, starting with '子教所是'.

己七月

以字後直帝虎

府馬作也

新定古今圖書集成
禮儀典
卷一百一十五

素日

卷之六

不食之者不謂之

解

1872

辛卯上元

古園美礪塹元夫之舍溪川新之佳家年上付礪
 友支純苑田武美浦上地之分古而坪之內而族坪
 和四半端他止家作土浦一頃我系在古名繪
 岡田半門之地浦信江河身古系係系系
 上上以上

己卯

呂年子成男

東山名迹

東園集

臨江新王位而牛小丹誦帝

今他日而七族五作一也

九
扶
降

水我果之四年而永升諸一昂地而之信北
恒是其在以安之般故自列侯陰國而朱門之通
高之相信故 恒有以金以保其終之貴也

已

八月

村松並雅

卷之六

此乃一書之序也

五
北
平

子思子

以上低張とは往來し水く山を越え油信を在難之
 は金きふけ物々を山と云ふ信引拂し山を
 物々を山と云ふ運送は仕官の出入りなり
 以上一山を山と云ふ山門の事計に事り及此山を山
 事り及此山を山と云ふ山門の事計に事り及此山を山

前

白井久之助

會計

少諾令中保

東
山
堂

Handwritten text in vertical columns on the right page, mostly illegible due to fading.

口上之文

今般云 仰出氏茂少能其官改各仕其官
は乃の所より之の

八月七日

如所奉
过 朝

東
山
堂

李願之笑

丹波國志

馬島書院

私義國許二名在在母胎而後東夷之川經
中波在富張費小子高法中少波中為子教人
以之

乙

八月

馬路王莊

水溪里とて伝所甚き跡有自他急山用言
不難合と我地方に於ても思ふ事なれ有十年い
つ虎内白井久の助油借渡り居たり長屋の内あり
お又此は舟より多く一船も無きは河年毎
多し向左の傷所油留付 佐村より是乃係なり
乾かし

己

八月十七日

北村半之助

廿

新編
うぶな

東京大学

（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.)

後に出改

寺口後三郎

多し通段名はたふあゆ中上はひと

八月十日

新し通二つあは半

東京大学

通改名は波而匠子頼公と
八月廿三日

錦之助改

西光貫一郎

通改名は波而匠子頼公と

八月廿三日

通改名は波而匠子頼公と

少正

六、三、五、七、九

松園先生文集

西坡

續編

年
預
口
上
之
覺

紅花先服下客和泉隔通了看云後可復何若
石在石當子投焉之方彼石中子化何處之方
下客臨臨少時臨門新之從中中車大撒玄微家
昨日轉宅此後入費中子少水自而衣之何處
下客下石係子於此之云

乙
三

大學致大助致

司馬凌海

[illegible]

不忌苦甘辛酸之味

伊勢屋友多傳言上は紅紙不調法者といふは
 去年年中より酒の用違ひ
 江戸に「酒」の勅が在
 形は異なりは極難之は余が好む所なり
 府は如何所用の且て代りしと云ふ所
 外附のやれは去年年中酒の用違ひ
 去年年中より酒の用違ひ
 江戸に「酒」の勅が在
 形は異なりは極難之は余が好む所なり
 府は如何所用の且て代りしと云ふ所
 外附のやれは去年年中酒の用違ひ
 去年年中より酒の用違ひ
 江戸に「酒」の勅が在
 形は異なりは極難之は余が好む所なり
 府は如何所用の且て代りしと云ふ所
 外附のやれは去年年中酒の用違ひ

上

明治二十九年九月

江島屋

後主君公卿

文政人

善右衛門

明治

所収所

是

此後以後諸河是猶付及元大之保彦君
為之「後」付万方而地中其生也

十月七日

澤田作助

東京大學

十
月
廿
日
和
親
叔
父
氏
死
去
故
其
身
之
定
式
は
忌
後
に
受
け
た
方
に
あ
る
所
中
と
は
な
し
と
す
五
五

和親叔父氏死去故其身之定式は忌後を受け
た方にある所中とはなしとす
十月廿日
大澤山一亭

东山隆延

永儀大業後諸王
 所封諸王勅位
 亡父茂也花山虎角三浦隆之占中
 四當他卜多々留業之生活也
 以爲因之ハ所依在末野本位是之也支業字号
 未心重卜自通高之末本在元ノ級

山新華之係曾幸之五又之海金王溪キ南
良三ノ改名仕茂信官彩ノ通ノ山母鹿ノ被市ノ
並信係仕金依之山延事就之虎上ノ歌ノ

己十月

以治二己年十月

骨逢

泉石

善書法一

瑞學校

所役所

九 附

事文油儲地も穀田田は桑菜菔
こ家も一古新く通事

東京大学
総合図書館
蔵書印

石田半右衛門
泉屋嘉三郎
形古と通之

年月日

山内達
巴正七之侍

九
方同

東京大学
蔵書印

東京大学

五

（Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '江' and '改' are visible.)

江改名止片
砂名の庵中上片

乙十月

中村誠方馬門

東京大学

六

東京大学

...

弘文院改名仕代此乃山庵之上民

己十二月

...

東京大学

我角高き松山江 河舟より勸子を其後
渡彼に贈山用当育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其

己十月廿七日

譚内記

度禪門出勸の座

先昔より度禪引に在る者も七、度禪
の元より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其
方より其後育中とて以給ふ勸は其

己十月廿七日

吉田親安

[illegible]

乙丑

西門子

丹浦

大竹張氏

下田望郎

賞

いふ事ある事とて通つ吐物思ふ付ゆふ
持子波しる事有る事ありて思ふ事あり
はし謹慎に在る事ありし事ありて思ふ事あり

己十月九日

西の当番

井浦良助

石竹波

石田源吉

石

本文及実義は余の後に又
事
大至

士族

山本北太郎

松崎源吉

方々此方唐見島表に
用向中付及の生れる
はありて思ふ事あり

方々此方唐見島表に
用向中付及の生れる
はありて思ふ事あり

方々此方唐見島表に
用向中付及の生れる
はありて思ふ事あり

鹿兒島藩

十月十三日

田中清之進

田中清之進

蘭学校

江戸

市文以軍論之而本以爲名也

十一

少至得

大字長

西

叔父茂久、病重、之、家、若生、之、何、計、此、叔
成、列、免、去、此、其、悔、之、常、式、之、多、被、有、語、不、此
あ、り、と、中、上、氏、之、

乙酉月廿一日

月玉歲昂尔

Blank page with vertical red lines and faint bleed-through from the reverse side.

松久先生遺言改訂
山崎氏は此書に海軍府を
及て旧名鐵多島より
改訂しやんが
此の如し

己十月廿九

中村鐵江

東京大学

五ノ月廿二日
大日本明治二十二年
五月廿二日

此代改定之也
改定此代
此代改定

己十月廿二日

栗田三子

東京大学

Blank page with vertical red lines.

油信地并燕寺觀光

松茂青心是種所元靜忌廟不より高年長友
新治市市林治より新更原地公武而之後降一降
年事信地信宅系主其系上之他五生其有降
信地より新治より通治居此より去る月中より新
治より其より新治より其より新治より其より新
治より其より新治より其より新治より其より新

信地並武

赤井准中少兼生

下
九
青心山是種所元靜忌廟不より高年長友
新治市市林治より新更原地公武而之後降一降
年事信地信宅系主其系上之他五生其有降
信地より新治より通治居此より去る月中より新
治より其より新治より其より新治より其より新
治より其より新治より其より新治より其より新

東京大学

Handwritten text in the top right section of the right page, enclosed in a rectangular border.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several vertical columns.

泊来ベツト 二枚
但拾う枕あり

名も鹿以島後黒田也

東
六
八
二





